

「私が町長になったら」

桑折の未来 中学生が提案 こおり未来会議



新

総合計画の方策「広報広聴機会の充実」の一環として、町民のまちづくり

への関心の向上や、郷土愛の醸成を目的に実施する「こおり未来会議」。今回は、町の将来を担う醸芳中学生を対象に、町長特別授業と町長との懇談会が8月24日、醸芳中学校で行われました。

特別授業では、各教室に設置されたモニターを通じて、高橋町長が自ら全校生徒へ「住み続けたいまち 住みたいまち こおり」の実現に向けた、町の重点的な取り組みを説明しました。生徒らは、モニターに映る町長を見つめ、町が置かれている現状や目指す将来像を真剣に聞き入りました。



続いて行われた懇談会では、2、3年生の代表生徒9人が「私が町長になったら」をテーマに、日常生活の中で感じている町の課題や改善点、今後どのようなことに取り組みたいのかについて、アイデアを発表しました。



高橋町長は一人一人の意見に感想を述べ、「町の将来を真剣に考えてくれている姿に感動し、発表を聞いて、さらに可能性のある町だと感じた。中学生の皆さんも、同じまちづくりのパートナー。共に良いまちづくりに取り組んでいきたい」と話しました。

町は、今後も「こおり未来会議」を開き、町民の皆さんと共に、より良い町の将来を築いていきます。

たくさんのアイデアが出ました！

- 町民アンケートの対象者に小中学生も含めてほしい
- 半田山自然公園をもっと便利で、もっと遊べる場所に
- 「住みこちランキング2位」を大々的にPRしては
- 町のInstagramなどSNSをもっと充実させて

など



原爆投下の日に、広島を訪問 戦争の恐ろしき、平和の尊さ学ぶ

3年ぶりとなる平和学習派遣事業が8月5日から7日に行われ、各小学校6年生の代表児童4人が参加しました。児童らは、広島市の平和記念式典に参列し、市長による平和宣言やこども代表の平和への誓いを聞き、原爆の子の像に千羽鶴を奉納。また、平和記念資

料館の見学や被爆者の体験談を聞くなどしました。児童らは、クラスメイトに、戦争の歴史を伝えるべく、メモをとったり、普段学校で使用しているタブレット端末で写真を記録したりするなど、戦争の恐ろしさや平和の尊さを熱心に学びました。



平和を広めるためにできること

「本当の強さとは違いを認め相手を受け入れること」という平和式典での子ども代表の人の言葉にとっても共感しました。友達の個性を受け入れ、相手を理解しようとする、これが、私たち小学生でも平和を広めるためにできることだと強く思いました。



醸芳小
佐野 璃咲さん

戦争の悲惨さを忘れない

平和記念資料館に展示されていた当時の写真や遺品、手紙など見て、私と同じくらい年齢の子が命を奪われたという事実、胸が苦しくなりました。今まで、8月6日は単なる夏休みの1日でしたが、その日にどんなことが起きたのか、私はずっと忘れません。



睦合小
浅野 蓮心さん

私たちが果たすべき役割

平和学習に参加し、命の大切さや家族、友達がいる幸せについて考えることができました。平和とは、ただ願うだけでなく、願いや思いを言葉にし、行動に移し、形に残し、後世に訴えかけていくことが、平和学習に参加した私たちの果たす役割だと思いました。



半田醸芳小
片平 希美さん

未来へつなげていきたいこと

今現在も原爆によるやけどや後遺症で苦しんでいる人がいること、一瞬にして世界を変えてしまうのが戦争なのだというのを知りました。平和がどんなに素晴らしいことか、自分自身で感じ、みんなに、そして未来に伝えていこうと思いました。



伊達崎小
大槻 絢音さん

1・2 原爆ドームや資料館を訪れ戦争の悲惨さを目の当たりに 3 平和記念式典に参列 4 各小学校6年生が折った千羽鶴を原爆の子の像に奉納